

味のある「地域の呼び名」

長い山旅に出かけると、山の中でラジオの気象通報を聞いて天気図を書き、さらに天気予報を聞いて自分としての天候予測をすることが多かった。

現在自分が居る場所を含む地域（地元）の天気予報や関連する情報に耳を傾けることで有益な情報を得ることができるので、注意深く右を傾けたものだ。

また気象通報を聞いていると、国内国外の普段はあまり気にもしないような地名と出会うので、これもまた楽しみのひとつにもなった。

<1> 福島は味がある

飯豊山へ行った時だろうか、福島県の天気予報を聞いていたら「明日の天気、浜通りは・・・、中通りは・・・、会津地方は・・・」と耳に入ってきた。東西 180Km ほどに大きく広がる福島県は面積約 13,800K m²、北海道・岩手に続き全国第三位の広さである。太平洋側と内陸部の盆地と新潟県境の深い山奥とでは気象条件にも大きな違いがある筈だ。歴史的な背景もあるのかもしれないが、これを大きく「浜通り・中通り・会津」と三つの地域に分けている。それにしても、この味のある美しい名の付け方には感心するしかない。

気象庁が定めた「天気予報・警報・注意報の発表区域」で詳細を調べて見ると、浜通り・中通り・会津ともに「北部・中部・南部」にさらに細分化されていることがわかった。



<2> 愉快的「さんぱち」

岩手・秋田・青森あたりを旅した時、カーラジオで天気予報を聞いていたら「さんぱちかみきた方面の明日の天気は・・・」と耳に入ってきた。

宿に入ってからテレビの天気予報を見てようやく解った。「三八上北方面」とは青森県の三戸・八戸・上北郡方面を指すものだった。福島県の「味のある美しい」響きと比べると、青森県の「三八上北」は「雪にも風にも負けない逞しい愉快さ」が感じられる響きだった。

「天気予報・警報・注意報の発表区域」では「津軽地方・下北地方・三八上北地方」の三分区になっており、



その中がさらに細分化されている。津軽地方は「東津軽・西津軽・中南津軽・北五津軽（北津軽郡+五所川原市）」の四区分、三八上北地方は「上北・三八」の二区分、下北地方はひとつだけとなっている。青森県は日本海・津軽海峡・太平洋の三つの海に面しており、日本海側は大陸からの季節風の影響を強く受ける地域である上に、起伏の少ない平地と大きな山稜を背負う地形の地域とがある。また津軽海峡に面した地域では海上を吹き荒れる風を受けるだろうし、いずれの地域にせよ冬季の気象の変化はかなり複雑だろうと想像できる。

余談になるが、地図を見ていて新たな疑問が湧き出て来た。地図上で上にあるのが下北で、下にあるのが上北、この疑問の解消は別な機会に譲ることにしておく。

<3> 「だいほく」 って？

福島県は東西に広い県であるが、長野県は南北約 220Km の縦長の県で面積は約 13,600 K m²。面積の広さでは福島県に次いで四位の県である。現在の気象庁の天気予報区分は「北部・中部・南部」となっているが、以前は「北信地方」・「中信地方」・「飯田伊那諏訪地方」と言っていたような気がする。三つの大区分の中はさらに細かく区分されて、次のようになっている。

「北部」は「長野・中野飯山・大北（だいほく）」の三分区、「中部」は「上田・佐久・松本・乗鞍上高地・諏訪」の四区分、「南部」は「上伊那・木曾・南伊那」の三分区になっている。何となく実情に合っているような気がするし、あらためて長野県の大きさ・広さが認識できる。

ラジオで初めて聞いた時には「だいほく地方」とはどのあたりを指すのだろうかや咄嗟に思い浮かばなかった。後で地図を見てなるほどと頷いた、「大町」と「北安曇郡」を指しているようだった。

<4> 「峡（かい）」より始めよ

長野県の南側に位置する静岡県は太平洋に沿って東西に広がる県である。地図を見た通りの解りやすさで、天気予報は「西部」「中部」「東部」「伊豆」の四区分になっている。

静岡県の北側にある山梨県では、大きな区分としては「中西部」と「東部富士五湖」の二区分となっているが、さらに細かい区分では「中西部」は「中北地域・峡東地域・峡南地域」に分けられ、「東部富士五湖」は「東部・富士五湖」の二区分に分けられている。

峡東・峡南という名前は山梨県外の人にとってはわかりにくい表現だが、山梨県の人々にとっては一般的な表現にも使われている。山梨県を「峡（かい）の国」と呼んだことに由来するものらしい。

山梨県は北に奥秩父の稜線を背負い、西は八ヶ岳・南アルプスの稜線が立ちはだかり、南に富士山、東には丹沢山塊・道志山塊・奥多摩の山なみが繋がり、奥秩父の稜線とがっちりと手を組んでいる。その囲いの真



中に、笛吹川・釜無川・早川が流れ込んで扇状地や盆地を形成している。それほど広い面積の県でもないが、気象条件の地域ごとのばらつきはかなり複雑なような気がする。

地図を眺めているとその地を歩いているような気分になることができる。

今風にカタカナ言葉で言えば「イメージ旅行」あるいは「バーチャル・トリップ」とでも言うのかもしれない。

この「天気予報・警報・注意報の発表区域」という情報を横に置いて各県の地図を眺め直すと、さらに色々なものが見えてきて、そこへ行って見たくなるから面白い。

以上

